# G(·《多0家)

## 通信41号 2016.10.1

· · · 平和 · 協同 · 自然のひろば · · ·

2016年らいてう講座Ⅱ

ジェンダーの視点から読む『源氏物語』

~紫式部からのメッセージ~最終章『浮船』を

9月17日(土)に宮島満里子さんによって語られた。



紫式部からのメッセージを宮島満里子さん最後の語りとしてお聞きしました。満里子先生は1925年丸子に生まれ、古典研究75年、源氏物語を語って60年、ジェンダーの視点から読み直して12年、らいてうの家で語って7年が過ぎました。お年を召してもいつも美しい凛としたお声と上品な着物姿での講義は1年に1回でしたが皆さん楽しみにしていました。

『源氏物語』後編『宇治十帖』で式部は「俗聖」「いい男」といわれる男や『結婚拒否」を命をかけて果たす女の生涯を見事に表現し、現代にも生きていそうな人たちをえがいた。そこで式部は「二心なからん人のみこそめやすく頼もしきことにはあらめ」と母親としての願いは式部の現実的見解と述べ、「わが心もてありそめしことならねども心憂き宿世かな」では性被害にあった女の側は逃げ隠れし、男は許されるという差別構造は現代なおあると。『夢浮橋』の終章で式部は女の理想像を描きたかったが時代の慣習からは抜け出せなかったと。式部の内心に込められた途方もない思いを現代の私たちは、永遠の課題としてこれからも探っていかなければならないと思う。と締めくくられた。式部の途方のない思いとは幻でない男女の愛なのか。一夫一婦制になった現代に生きる私たちです



が、いまもって男女の愛、夫婦の愛には深い川があります。千年前の『源氏物語』は原文を朗読で読んでこそ味わいあるものだと宮島先生りと解説での語りと解説で知りました。今年91才になられる先生がお元気のあいだは、来年も「宮島源氏」を聞かせて頂きたいです。

(木村見江)

#### 2016年らいてうの家 夏の特設講座 9月12日

NHK 朝ドラに登場した「らいてうってどんな人?」米田佐代子館長の話 特設講座にもかかわらず、この日は埼玉県、茨城県、大阪などからの参加があり盛況でした。 「ごまじるこの作り方」の1年後に平和活動に復帰したとのことでした。

#### とと姉ちゃんとらいてう?

NHKの「とと姉ちゃん」の中にらいてうさんが何度も登場してきました。とと姉ちゃんは高等女学校で担任教師かららいてうの「青鞜」のことを知らされます。『元始、女性は実に太陽であった。』と。戦後、花森安治と暮らしの手帳社を創業。らいてうにも原稿を書いてもらうことになり・・・それが「ゴマじるこの作り方」でした。「まず黒ゴマをごま塩やゴマ和えを作る時のように、焦がさないように注意して炒ります。一寸っていますと、だんだんゴマから油が出てきて一一すりこぎが廻りにくくなり汗が出てくるほど骨がおれますがそこをがまんして丹念にすってすってすりつづけます。一後略一」あ一今の私には気の遠くなる話、とてもじゃないがそんなことやってられない。だけど本当はこういうことができる日々の暮らしが大切なのでは。食べ物がどういう風に作られどういうやり方で私たちの口に入っていくのか。他の命をもらっていることを忘れていないだろうか。作っている人たちのことをないがしろにしていないだろうか。私たちはていねいに味わって食べているのであろうか。日々の暮らしがきちんとできる事がどんなに素晴らしいことか。それは、平和でなければできない。らいてうさんの「平和が一番」の言葉につながります。

らいてう生誕130年の今年、身近な「朝ドラ」の中に登場してきたことをうれしく思います。決して過去の人ではなく、今でも私たちのそばにいてくれるように思います。

らいてうは「雲の上の人」ではない。悩み、迷い、誤りも犯しながら、いつも「自分で考え、自分ひとりの力で行動する人」だったーと。米田佐代子さんのらいてうへの愛情あふれる言葉でした。

(山中文子)

### 秋のらいてう講座ご案内

10月1日(土)

森の恵み講座 10:00~15:30

4 m 4 m

笹がり(らいてうの森)10:00~12:00

らいてうの庭観察13:30~15:30

2日(日) 10:00~15:00 秋の植物観察

10月16日(日)

らいてう講座 昔語り 「松の木物語」 ビデオ上映とお話 手塚正道 会場 らいてうの家

11月19日(土) 13:30~16:00

シンポジウム (東京 主婦会館ブラザエフ)

パネリスト;ノーマ・フィールド・青井未帆

コーディネーター;米田佐代子